全国連盟通信

第32期　No.5
2017年2月28日
発行責任者
石川正三

つなごう 支援の輪

新日本スポーツ連盟
〒170－0013　東京都豊島区東池袋2-39-2　大住ビル402
TEL：03-3986-5401　FAX：03-3986-5403
Eメール：zenkoku@njsf.net　URL http://www.njsf.net

「前進への転換」にチャレンジしよう

創立50周年記念の諸事業を成功させ、スポーツ権の時代を拓く出発点となった第32回全国総会から一年が経過しました。スポーツ基本法の「基本理念にのっとって」国民のスポーツの振興と発展をすすめるうえで、スポーツ連盟の役割はますます重要になっています。

スポーツ基本法に基づいて策定される「第2期スポーツ基本計画」が3月末に発表され、その後、各都道府県などにおいて「地方スポーツ推進計画」が作成されることとなっています。

現在公表されている「第2期スポーツ基本計画」案において、「あくまでもスポーツの主役は国民であり、また、国民に直接スポーツの機会を提供するスポーツ団体である」と明記されています。スポーツの価値を国民のものにするうえで、国民とスポーツ団体が「主役」の役割を持っていることが表明されたことはとても大切なことだと思います。

スポーツ界が手を結んで

第31回全国スポーツ祭典の取り組みの中でも、少なくない競技種目において、競技レベルの点でも、運動と組織の広がり、競技運営面での他のスポーツ団体との協力の点でも、あらたな協力の広がりと組織的前進の可能性が生み出されつつあります。

国民だれもが身近で差別なくスポーツを楽しめる社会をめざし、スポーツ界が手を結んで国民への働きかけをする時代。「スポーツ権の時代」「『スポーツきみが主人公』の時代」実現にチャレンジする時ではないでしょうか。

現状維持から前進へ

こうした大きな運動と施策を推進・加速するためには、スポーツ連盟自体のスポーツ活動とそれを支え発展させる連盟組織と会員を増やし広げることがどうしても必要です。

スポーツ連盟の組織と会員はこの10年来「現状維持」で推移していますが、全国連盟は、こうした状況を「前進に転換する」ことが今年の最大の目標と考え、第32期第１回評議員会（2/11-12）で率直な提起と議論をお願いしました。全国的には、「10%、4500人」の目標をもつとともに、それぞれが自主目標を持ってすすめます。すべての連盟組織で、論議を深め具体化に全力をあげようではありませんか。

（全国連盟会長　和食昭夫）

▼スポーツ連盟の最近の活動　2017新春マラソンから

①神奈川新春マラソン
②愛知新春マラソン
③大阪新春マラソン
④武庫川新春ロードレース
⑤福岡新春マラソン

10数年来の課題
スポーツ連盟の組織・会員拡大の大きな流れを作ろう

２月11、12日に開かれた第32期第1回評議員会では、10数年来の組織・会員の現状を前進に向けるための論議が活発に行われました。

スポーツ連盟の「組織・会員拡大」は、活動全体では積極的な前進面を作りだしながらも、組織・会員拡大では10数年来「現状維持」が続いています。

今回の提起は、こうした組織・会員拡大の課題での「現状維持」を全国の知恵と力を結集し、前進への大きな流れを作り出すことにありました。そして、スポーツ愛好者やスポーツクラブ・チームを取り巻く環境・条件の変化に目を向け対応することをはじめ、スポーツ連盟自身の役員・世話役の世代的な継承の課題への対応などを含む重要な討議の機会となりました。

「会員拡大が前面で驚いた。楽しさが伝わることで、実現すること」「広げる状況を作ったが、そこに対応する人が少ない」「公共施設が少ない。利用料も低くする必要ある。貧困は青年層に厳しく、年配者は元気。政治と結びついている」など、討論での組織拡大への理解が深められました。

また、「頑張っている人を援助していることが見えない」「自立した取り組みができるまでの支援体制が必要」「新たな組織づくりへの財政支援を」など、可能性を具体化するための相互支援などについても論議が行われました。

こうした討論を通じて第１回評議員会は「スポーツ連盟の組織・会員拡大の取り組みについての討論の整理」を確認し、組織・会員拡大への取り組みに全力をあげることを確認しました。その内容は別項（３ページ）の通りです。

各都道府県連盟、各全国種目組織が、現状分析を行い、到達点、どのような組織目標を持つか？ 何が求められているか？ 課題は？など、あらゆる面から組織を前進に向けるための論議を始めましょう！

（全国連盟理事長　石川正三）

第32期第１回評議員会報告

2017年２月11～12日 東京

今回の評議員会は、評議員32名（84％）と理事・役員34名の出席となりました。

大きな議題である「第32回全国総会後の活動と2017年度の重点方針案」では、石川正三理事長から「今後１年間で10％増、4500人の拡大に取り組む」ことなどが提起されました。

これに対し評議員からは、「空白地域に出前大会を実施するには、予算が必要」「10％増やすための具体的な方法を提案してほしい」「連盟員を増やしても会場確保ができない問題がある」「組織拡大交流会議のテーマは再考の余地あり」「減っていく連盟員をどうするかを考えるべき」「活動内容の充実があってこそ組織拡大がある、なぜ先に組織拡大なのか」「連盟員のメリットをもっと強調してもいいと思う」など、さまざまな意見・要望が出されました。

２日目には、「スポーツ連盟の組織・会員拡大の取り組みについての討論の整理」（３ページ参照）がされ、組織拡大の意義と目標、具体化の進め方、組織拡大交流会議の抜本的な再検討、財政的な支援強化の検討、今後のスケジュールを確認。そして、すべての議案が承認され、最後に石川理事長は「この評議員会の内容を各地で伝えて、組織拡大の取り組みを広げてほしい」と訴えました。

（全国連盟事務局　佐藤信樹）

「ひろば」普及に尽力した連盟に功労賞を贈る「2016年度ひろば・オブ・ザ・イヤー」では、広島県連盟（左）と愛知県連盟（右）が表彰された

スポーツ連盟の組織・会員拡大の取り組みについての討論の整理

2017年2月12日　第1回評議員会

１、意義と目標

スポーツ連盟の良さは、全国連盟、全国種目組織、都道府県連盟は互いに協力し、活動を発展させていく運営にある。「連盟組織・会員拡大の課題」も、この良さを発揮して取り組むことが必要であり、その実現のために全力をあげて取り組む事を確認する。

その意義と目標は以下の通り。

①連盟組織及び会員拡大の意義は、自己目的ではなく、愛好者、競技者の要求にしっかり向き合いその要求をともに実現し楽しさを広げることに大きな目的がある。

②「スポーツきみが主人公」を競技とプレーの場面だけでなく、組織運営に於いて実現する活動としても重要な意義を持っている。

③上記の内容を持つ連盟組織及び会員拡大の全国的な数字的目標として、10%、4500人をかかげる。この目標は、すべての連盟組織が、この10年来の「現状維持」から前進へと転換し元気な組織になる意味を持った目標である。さらに、全国連盟の安定的な財政を確立する上でさけられない課題になっていることも確認する。

④今回の連盟組織及び会員拡大の取り組みは、組織的な後退や困難を抱えている組織の課題を解決し活性化を図ることも重要な目標として位置づけて取り組む。

⑤スポーツを楽しむためには、「時間、場所、お金」が不可欠であり、長時間労働や暮らしの貧困と格差など社会的な課題の解決をめざす国民的な運動にも参加していく。

２、具体化の進め方

実際的な目標と取り組みは、各全国種目組織、各都道府県連盟が、自主目標を持ってすすめることを基本とする。この目標の設定は５月末を目安に検討し、遅くとも６月の組織拡大交流集会までには確定する。なお、全国的な会議などが開催できないところはメール、スカイプなどを活用し調整する。また、具体化に当たって、全国連盟、全国種目組織と都道府県連盟との意見交換をこれまで以上に大いにすすめる。

３、組織拡大交流会議の企画と運営を抜本的に再検討する

６月に予定している全国組織拡大交流会議の企画と運営については、こうした取り組みの目的に応える内容として抜本的な改善をはかる。評議員会で出だされた意見や種目、都道府県連盟アンケートなどに示された、多様な企画と運営の創意工などの成功事例の紹介、困難な課題や悩みを討論する分科会を持つなど企画の再検討を行い、３月上旬に発表できるようにする。

４、財政的な支援強化の可能性を検討する

出前大会やブロックの活動、組織づくりの話し合いのための役員の派遣など財政上の支援の強化については、従来の空白対策費以外の可能性についても検討する。

５、節目を決めて取り組む

４月理事会、８月理事会、12月理事会でそれぞれ活動の到達点を確認し必要な対策を講じていく。

スポーツ連盟の　スポーツ仲間の『助けあい』を！

傷害見舞金制度

行事加入型

１行事１人７０円（１大会２日間まで対応）

スポーツ連盟もしくは加盟団体・クラブが主催する競技大会等の行事で発生した傷害と特定疾病を対象に給付が行われます。

詳しくは全国連盟 傷害見舞金係まで

給付金

死亡見舞金	（傷害）	２００万円
	（特定疾病）	１５０万円
後遺障害見舞金（最高）	（傷害）	２００万円
	（特定疾病）	１５０万円
入院見舞金日額	（傷害）	３，０００円
	（特定疾病）	２，０００円
手術見舞金	入院日額の10倍・20倍・40倍	
通院見舞金日額	（傷害）	２，０００円
	（特定疾病）	１，０００円

スポーツ庁と意見交換

スポーツ施策・予算に関する要望書を提出

←スポーツ庁に要望書を手渡すスポーツ連盟の和食昭夫会長（右）と労山の浦添嘉徳理事長（中央）

2月6日、新日本スポーツ連盟と日本勤労者山岳連盟は、スポーツ庁・鈴木大地長官宛に「2017年（平成29年）度の国のスポーツ振興施策とスポーツ関連予算案に関する意見と要望について」という要望書を提出しました。この懇談には、スポーツ連盟・労山関係者から７名、スポーツ庁から12名が出席。

提出した要望書のなかでスポーツ連盟は、2020東京五輪関連予算が増える一方で、生涯スポーツ予算が停滞していることを指摘。「『スポーツの主役は国民』を実感できるスポーツ施策を推進することが重要」と訴えました。また、スポーツ参加人口を増やすためにも公共スポーツ施設の減少に歯止めをかけるよう対策をとること、スポーツ産業の促進に力点を置くことで公的なスポーツ振興策が後退しないこと、利用者や住民の声を反映しにくい指定管理者制度の欠陥を改善すること、スポーツ連盟の事業への名義後援・財政支援をすることなどを要請しました。

そして労山は、山岳環境整備や登山者教育、遭難対策など課題に対してスポーツ庁が積極的役割を果たすよう提案しました。

これに対してスポーツ庁からは、「公共スポーツ施設の減少は止まりつつある。今後は学校施設の開放や、（緑地や空き地など）オープンスペースの活用でスポーツの場は創出できると考えている」「スポーツ産業で得た資金をスポーツ振興事業に還元される仕組みを検討していく」「施設の管理水準については、制度的な課題というより個別の問題」「スポーツ庁が定める要領の条件にあえば後援名義は可能」「登山者教育は、基本的なことについては共通した指導ができる形を考えている」「登山届は、インターネットでの登山計画管理サービスで統一を図っている」などの回答がありました。

その後、スポーツ連盟の和食昭夫会長は「地方では予算がなく、施設の改修もできず困っている。公共施設の整理統合も進められている状況のなかで、施設の改修と新設を促進する流れを作ってほしい」と発言。また、石川正三理事長は「安倍首相が提出しようとしている『共謀罪』法案や、米大統領による特定国からの入国禁止令は、人権の問題としてオリンピックの障害になる」と五輪精神に基づいた対応を求めました。

労山の川嶋高志事務局長は、山岳行政が省庁や自治体ごとに縦割りでバラバラになっている現状を訴え、「遭難対策は横断的に考えるべき。民間、行政を含めて旗を振ってくれるところがほしい」とスポーツ庁への期待を語りました。

「スポーツは平和とともに」の旗をつなごう

国民平和大行進

最新情報はWebで

ホームページ 平和行進 検索
www.antiatom.org

フェイスブック 平和行進
facebook.com/heiwakoshin

組織拡大交流会議を開催（今年６月）

スポーツ活動・組織局
2017年活動方針

今回の評議員会では、組織拡大について活発な議論がありました。組織拡大はどの組織でも切実な課題であり、理事会からは、10％増の4500人を増やすことが提案されました。６月３～４日には組織拡大交流会議が開催されます。この提案をもとに組織交流会議で実践的な課題や、新たな問題点の提起、意見交換を行い、全組織が活性化することを目指します。

スポーツ活動・組織局から交流会議案が提案されましたが、評議員から抜本的な内容変更を求められ、現在、内容を検討中です。各地域では、大会が開催されているが、地域組織がない、種目組織がある が地域組織がないなど、体制を整えることで、新たな組織確立につながる要素が散見しています。各地域組織と種目組織が密に交流、意見交換できるような場が必要なことから、交流会議の中では、各組織がブースを出しての相談会を開催することやテーマを決めてパネルディスカッションを行うなどの案が検討されています。

今後10％増に向けて各組織に目標を設定していただき、可能性を探るとともに、新しい種目や地域組織を作っていくことも課題です。皆さんの種目叡智を結集して会員を10％増やすことに向かって奮闘しましょう。（スポーツ活動・組織局　宮内泰明）

平和運動を各地に広げよう

スポーツ権・平和運動局
2017年活動方針

スポーツ権・平和運動局2017年の活動のポイントは以下の通りです。

１.「スポーツは平和とともに」の運動を広げる

①19地域で24企画で開催されている反核平和の運動を、新しい地域に広げつつ成功させましょう。各地の反核平和の活動予定を全国連盟までお知らせください。

②各地域で国民平和大行進に積極的に参加し、「スポーツは平和とともに」の桃太郎旗と思いを綴る「引継ぎノート」を８月４日の広島平和資料館前までつなぎ、最終的に広島県連盟に渡せるように体制を強化します。

③「2017反核平和スポーツのつどいin広島」（期間８月５～６日）を各地の反核平和の運動の交流の場として、位置付けて成功させましょう。

2017反核平和スポーツのつどいin広島
（予定）

8月4日（金）国民平和大行進到着出迎え集会
8月5日（土）13時　戦跡めぐり
15時　平和資料館見学
18時　「反核平和マラソン交流会」
20時30分　交流会
8月6日（日）平和大好き卓球大会
ピースウォーキング

＊宿泊先は全国連盟で確保します。
＊交通費は飛行機が早割（3月中に購入）がお得です。

２.「第2期スポーツ基本計画」（４月発表）に対する各自治体のスポーツ行政への要請行動を強化し、実質的なスポーツ振興整備を前進させる

①スポーツ施設の増加や利用条件を前進させること、またオリンピックに関係して、市民スポーツの停滞を生じさせないための運動を展開することが求められています。

３. 2020東京オリンピック・パラリンピックを「アジェンダ2020」に照らして、持続可能な大会になるように関係者の姿勢を正していく

①１兆8000億円の総経費が公表されていますが、大規模な競技施設の建設や周辺の道路整備などを含めると、さらに経費が膨らむことが予想されます。

②東京都の基金が4000億円、組織委員会がチケット収入やスポンサー収入等々の総額を5000億円としています。9000億円の赤字補てんは、東京都が負担する関係になるのか、未だ不透明です。

③無駄に金をかけない五輪計画に変更させなければなりません。

④2020年の大会が近くなるにつれて、東京都や周辺自治体が、各国のキャンプ地になり、その間に市民スポーツ活動が抑制させられる可能性があります。事前に当局への働きかけと調査が必要です。

（スポーツ権・平和運動局　萩原純一）

多様で多彩な国際交流を

国際活動局
2017年活動方針

この間の国際交流から見えてきたこと。それは、多様で多彩な交流へと発展してきていること、そのための交流のあり方を社会情勢も見据えて整理していかなければならない、ということです。

こうした展望と課題を踏まえ、国際活動局の2017年の活動方針は次のようにしたいと思います。

１、国際交流運営細則について

代表団リストの管理、個人分担のあり方、海外保険加入など、2016年の活動を通しての課題を検討していきます。

２、アジア諸国との交流について

在日外国人
バドミントン大会

新日本スポーツ連盟の各種目の大会に、外国の方の参加を呼びかけるなど、種目組織と国際局が協力して、新たな取り組みを検討していきます。

３、「広島ー長崎500ｋｍ反核・平和マラソン」への海外代表団の参加について

ＦＳＧＴから“毎年参加したい”との要望について、福岡実行委員会やスポーツ権・平和運動局と協議、検討していきます。

４、リーフレットのフランス語版の作成

リーフレットの編集を機に、フランス語版の作成と活用方法を検討していきます。

【募集！】 私のクラブでは海外のクラブとこんな交流しているよ、私たちの連盟や種目でも韓国やフランスのスポーツ団体と交流をしてみたい、など国際交流に関する情報やご要望がありましたら全国連盟までご連絡下さい。（国際活動局　長井健治）

読者が参加する「ひろば」に！

広報局
2017年活動方針

「スポーツのひろば」は、「連盟関係者、読者が参加できるような誌面に」を編集方針に、さまざまな投稿を大募集しています。各地の活動レポート、写真、大会情報、大会記録、近況、いま考えていること…など何でもＯＫですので是非記事を送ってください。また、「お悩み相談」「アンケート」コーナー（「ひろば」リサーチ）を検討しています。簡単なアンケートに協力いただけると幸いです（下記参照）。

インターネット活用については、その有効性をアピールし、ホームページやフェイスブックを運用することで、円滑な運営や組織拡大につながることを伝えていきたいと考えています。フェイスブックの開設サポートは、継続して行っていますので、「フェイスブックを作ってみたいけど、どうしたらいいかわからない」という組織は、全国連盟広報局までお問い合わせください。　（広報局　佐藤信樹）

「ひろば」リサーチ

サプリメント飲む派？ or 飲まない派

普段サプリメント飲んでいますか？ メール・ＦＡＸ・ハガキで「飲む派or飲まない派」「（できれば）その理由」「氏名」「種目」「お住まいの都道府県」を明記のうえ、ひろば編集部に送ってください。

ひろば編集部へのメールは

hiroba@njsf.net

アンケートに協力いただいた方には、「ひろばポイント」１ｐｔを差し上げます。（６ｐｔたまるごとにQuoカード進呈）

加盟クラブ顕彰を次回総会で

総務局
2017年活動方針

総務局の役割は、「理事会の局間の情報共有化・サポート」「主要会議の準備と文書の整理・発送」「財政の堅実な執行と予算決算の試算」「理事会の局活動以外での連盟活動を準備・サポート」の４つです。

具体的な活動としては、機関誌「スポーツのひろば」の発送・購読管理、全国通信・報告集などの発送実務や事務所管理、備品管理、日々の現金出納と月次決算、復興支援ボランティア活動の支援、復興支援募金の募金一覧と活用一覧作成、傷害見舞金制度の運用、地域（ブロック）スポーツセミナーの開催助成などがあります。

第32回全国総会後の活動は、次の５つを重点課題として取り組んできました。

①「連盟組織・分担金検討委員会」への支援と提言をする。そのために総務局は、会員拡大を目的とした会費（会員）のメリット等の調査を、全国種目組織にヒアリングしていきます。

②「リーダー養成講座」開催とリーダー養成委員会（ＤＶＤ制作）への支援を強化する。

③事務局の人材体制の確立（アルバイト補強、専従の若返り）を図る。

④顕彰制度について、2018年３月の第33回定期全国総会で「在籍30年以上の連盟加盟クラブ」を表彰する取り組みを開始します。

⑤全国種目組織との定期協議を促進、調整する。

2017年の重点方針は、総務局の役割を果たしながら、これまでの重点５課題を中心に継続検討をして実践に結び付けること、若手と女性の分野に取り組むことです。（総務局　福島邦夫）

年報を活用して会員の拡大を

スポーツ科学研究所
2017年活動方針

スポーツ科学研究所では、3回のシンポジウムと4回の研究会を開催してきました。これまでの研究会では、スポーツ科学研究所が担うべき課題の模索がすすめられ、それは「国民的評論」の基礎づくりであったと考えられます。現在のところ、「2020年オリンピック・パラリンピック問題」「余暇活動」「スポーツ施設」「地域スポーツクラブ」「トレーニング科学」「運動文化研究」「マルクス主義スポーツ論」「疎外論の再考」「パフォーマンスとエンハンスメント」「スポーツ庁と今後の政策方向」などが報告されていますが、「研究所として模索すべき体系は何か？」の論議は未だなされていません。

2020年までは東京オリンピック・パラリンピックを対象とした集団研究で終始する可能性もあるが、スポーツ連盟50周年記念国際シンポジウムのような取り組みや『スポーツのひろば』への論考（例えば課題別の連載など）での貢献等も検討が必要と思われます。

研究会を通じた研究活動の積み重ねの上に、『現代スポーツ研究』第2号を来年8月末に定期発行し、その後の計画的発行の基盤をつくることが必要です。研究活動に支えられ、それを円滑に進めるために運営委員会、編集委員会、事務局活動を計画的、定期的に進め、それにあわせて『通信』も発行していきます。

また、研究所の研究運動を活発に進めるために、会員を倍加、少なくとも100名以上にする必要があります。研究会の開催と『現代スポーツ研究』を活用して、会員を増やしていきたいと考えています。

（スポーツ科学研究所　青沼裕之）

新日本スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所　年報

「現代スポーツ研究」Vol.1

頒価／1,000円
（送料別）

主な内容

＜特集＞2020年東京オリンピック・パラリンピックが市民に残すものは何か　ほか

お問い合わせはスポーツ科学研究所まで　MAIL:science@njsf.net

第32期全国会議及び主要事業予定一覧（2017年３月～2018年３月）

月	日	全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織
【2017年】			
3月	3日	「スポーツのひろば」4月号発行	
	4～5日	全国スポーツ祭典スキー競技大会（戸狩）	
	5日		全国サッカー協総会
	11～12日		全国テニス協総会
	18日		東京都連盟総会、50周年記念レセプション
	19日		千葉県連盟総会
	20日		京都府連盟総会、創立50周年記念レセプション
	25日		宮城県連盟総会
	26日		全国バドミントン協総会
4月	3日	「スポーツのひろば」5月号発行	
	8～9日	32期第5回理事会	
5月	1日	「スポーツのひろば」6月号発行	
	14日		和歌山平和マラソン（高野山～かつらぎ町）
	28日		和歌山平和マラソン（かつらぎ町～和歌山城）
	20～21日		全国選抜軟式野球大会（静岡市）
6月	3～4日	組織拡大全国交流会議（予定）	（4日）愛知平和大好きマラソン
	5日	「スポーツのひろば」7・8月号発行	
	10日		神奈川県連盟総会
	10～11日		全国スキー協代表者会議
	11日		富山・石川反核平和マラソン
	18日		三重県連盟総会、京都反核平和マラソン
	24日		石川・福井反核平和マラソン
7月	1日		東京反核平和マラソン（予定）
	2日		三重・大阪反核平和マラソン
	8～9日		神奈川反核平和マラソン
	9日		宮城・和歌山・兵庫反核平和マラソン
	15日		群馬反核平和マラソン
	16日		千葉反核平和マラソン
	23日		北九州反核平和マラソン
8月	1日	「スポーツのひろば」9月号発行	
	4日	2017反核平和スポーツのつどいin広島	
	6日	↓	愛知・石川・滋賀反核平和マラソン
	6日	↓	広島平和大好き卓球大会、ピースウォーキング
	6～8日		広島～長崎反核平和マラソン
	26～27日	32期第6回理事会	第14回全国バドミントン大会　団体戦（静岡県磐田市）
9月	1日	「スポーツのひろば」10月号発行	
	9～10日	東海ブロックスポーツセミナー（愛知）	
	30日～1日		全国ウォーキングフェスティバル（伊豆・踊子歩道）
10月	2日	「スポーツのひろば」11月号発行	
	14日		愛知県連盟創立50周年記念式典
	29日		サッカーEast Japan Cup（神奈川県藤沢市）
11月	1日	「スポーツのひろば」12月号発行	
	3日		全国年齢別水泳競技大会（東京）、福島反核平和マラソン
	11～12日		全国6人制男女バレーボール大会（石川県金沢市）
	11～12日		第51回全国軟式野球大会（千葉）全国テニス大会（埼玉県川口市）
	11～12日		全国シニアサッカー大会（大阪府堺市）
	12日		サッカーWest Japan Cup（大阪府堺市）
	25～26日		全国ミックスバレーボール大会（宮城県気仙沼市）
12月	2～3日		第14回全国競技大会　バドミントン大会　個人戦（愛知県愛西市）
	2～3日		第53回全国卓球選手権大会　一般の部（福岡県北九州市）
	10日		愛知高蔵寺弾薬庫一周平和マラソン
	9～10日	32期第7回理事会	
【2018年】			
1月	10～11日	全国縦断新春マラソン	
	27～28日		第53回全国卓球選手権大会　年代別の部（愛知県豊田市）
2月	10～11日	32期第2回評議員会・第8回理事会	
	25日		サッカーFinal Cup（大阪府堺市）
3月	10～11日	33回定期全国総会	

＊　追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。